

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月14日
【四半期会計期間】	第122期第1四半期（自平成30年2月1日至平成30年4月30日）
【会社名】	株式会社ナイガイ
【英訳名】	NAIGAI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 今泉 賢治
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂七丁目8番5号
【電話番号】	東京(03)6230-1654
【事務連絡者氏名】	取締役管理部門担当 市原 聡
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂七丁目8番5号
【電話番号】	東京(03)6230-1654
【事務連絡者氏名】	取締役管理部門担当 市原 聡
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第121期 第1四半期連結 累計期間	第122期 第1四半期連結 累計期間	第121期
会計期間	自平成29年 2月1日 至平成29年 4月30日	自平成30年 2月1日 至平成30年 4月30日	自平成29年 2月1日 至平成30年 1月31日
売上高 (百万円)	3,471	3,560	16,952
経常利益 (百万円)	192	184	472
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	162	152	543
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	74	33	746
純資産額 (百万円)	9,091	9,797	9,763
総資産額 (百万円)	14,413	14,827	14,516
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	19.76	18.56	66.17
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.9	65.9	67.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

4. 平成29年8月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

- (1) 当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある新たな事項は発生していません。
- (2) 前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績に関する分析

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、米国の政策動向、中国経済の持続的成長への懸念など先行きに不透明感はあるものの、企業収益や雇用情勢の改善、個人消費の持ち直し等を背景に、景気は緩やかな回復基調が続きました。

衣料品業界におきましては、天候がプラス要因に働き、春物が好調に推移したものの、衣料品に関する消費者の節約志向が依然として根強く、総じて厳しい状況が続きました。

こうした中、当社グループは本年度を最終年度とする第3次中期経営計画に掲げた各施策に引き続き取り組みました。

卸売り事業主力のレグウェア事業は、百貨店販路では、実需連動型の卸売りを徹底しながら店頭売上を伸ばす各施策に注力すると共に、原価削減による利益率向上に努めました。量販店販路では、大手量販チェーンとの取り組み深耕による売上拡大に努めました。

通信販売事業につきましては、テレビ通販で、継続ブランドの番組確保と消化率の向上に取り組み、インターネット販売では、ソックス販売に注力しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,560百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は169百万円（前年同期比2.2%減）、経常利益は184百万円（前年同期比4.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は152百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

セグメント別の業績概要は以下の通りです。

#### （卸売り事業）

レグウェア事業は、百貨店販路では、実需連動型の卸売りが定着し、店頭消化率が改善したことで昨年に続き返品が削減されました。また、当社1社体勢の売場構築等、商品展開スペースの拡大に取り組みると共に、雑誌媒体とタイアップしたソリューション商材の販売が寄与して、紳士、婦人共に店頭販売が前年実績を上回りました。

量販店販路は、“女性の足を健康的に美しく...”をテーマにした新ブランド「アロンジェ」の販売が予定通り開始したこと、大手量販チェーンとの取り組み強化によりプライベートブランド展開が拡大したことで、大幅増収となりました。

その他卸売り事業につきましては、概ね計画通りで推移しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間での卸売り事業の売上高は2,984百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は139百万円（前年同期比11.9%増）と増収増益となりました。

#### （通信販売事業）

通信販売事業につきましては、テレビ通販を展開する株式会社ナイガイ・イムは、昨年来の収益構造改革によるブランド集約の結果、前年に対し減収、減益とはなりましたが、繰越在庫のセール販売は計画以上となり、商品回転率は改善しました。

インターネット販売を展開するセンチーレワン株式会社は、レグウェア販売が堅調に推移し、増収増益となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の通信販売事業の売上高は575百万円（前年同期比13.4%減）、営業利益は31百万円（前年同期比38.9%減）となりました。

(2)財政状態に関する分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に対して311百万円増加し、14,827百万円となりました。流動資産では、現金及び預金が230百万円、商品及び製品が719百万円増加し、受取手形及び売掛金が526百万円減少しました。固定資産では、投資有価証券が時価の下落により111百万円減少しました。

負債は、前連結会計年度末に対して277百万円増加し、5,030百万円となりました。支払手形及び買掛金が197百万円、電子記録債務が442百万円増加し、返品調整引当金が183百万円減少しました。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純利益152百万円の計上とその他有価証券評価差額金の減少86百万円等により、前連結会計年度末に対して33百万円増加し、9,797百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に対して1.2ポイント減少し、65.9%となりました。

(3)経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5)研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	27,800,000
計	27,800,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年4月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,217,281	8,217,281	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	8,217,281	8,217,281	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年2月1日～ 平成30年4月30日	-	8,217,281	-	7,691	-	1,997

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,155,800	81,558	-
単元未満株式	普通株式 55,381	-	-
発行済株式総数	8,217,281	-	-
総株主の議決権	-	81,558	-

【自己株式等】

平成30年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社ナイガイ	東京都港区赤坂 七丁目8番5号	6,100	-	6,100	0.07
計	-	6,100	-	6,100	0.07

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成30年2月1日から平成30年4月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年2月1日から平成30年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,239	4,470
受取手形及び売掛金	3,429	2,902
商品及び製品	2,466	3,185
仕掛品	9	15
原材料及び貯蔵品	63	68
その他	481	473
貸倒引当金	22	24
流動資産合計	10,667	11,091
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	77	72
土地	79	78
その他(純額)	80	83
有形固定資産合計	237	235
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	3,279	3,167
その他	269	264
貸倒引当金	54	52
投資その他の資産合計	3,494	3,380
固定資産合計	3,848	3,735
資産合計	14,516	14,827

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	848	1,045
電子記録債務	869	1,312
短期借入金	339	338
未払法人税等	89	50
賞与引当金	40	83
返品調整引当金	378	194
株主優待引当金	15	15
その他	658	486
流動負債合計	3,238	3,526
固定負債		
長期借入金	35	35
退職給付に係る負債	1,074	1,088
繰延税金負債	366	342
その他	37	37
固定負債合計	1,513	1,503
負債合計	4,752	5,030
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,691	7,691
資本剰余金	6,781	6,781
利益剰余金	5,901	5,748
自己株式	4	4
株主資本合計	8,567	8,720
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,059	973
為替換算調整勘定	112	79
その他の包括利益累計額合計	1,171	1,053
非支配株主持分	24	24
純資産合計	9,763	9,797
負債純資産合計	14,516	14,827

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年2月1日 至 平成29年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年2月1日 至 平成30年4月30日)
売上高	3,471	3,560
売上原価	1,864	1,929
売上総利益	1,606	1,631
販売費及び一般管理費	1,432	1,461
営業利益	173	169
営業外収益		
受取利息	0	0
為替差益	10	17
持分法による投資利益	2	-
その他	9	2
営業外収益合計	23	21
営業外費用		
支払利息	2	2
持分法による投資損失	-	1
その他	2	3
営業外費用合計	4	6
経常利益	192	184
特別利益		
投資有価証券売却益	1	-
特別利益合計	1	-
税金等調整前四半期純利益	193	184
法人税、住民税及び事業税	32	31
法人税等調整額	2	0
法人税等合計	30	31
四半期純利益	163	152
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	162	152

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年4月30日)
四半期純利益	163	152
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	76	80
為替換算調整勘定	18	32
持分法適用会社に対する持分相当額	5	5
その他の包括利益合計	88	119
四半期包括利益	74	33
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	73	33
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年4月30日)
減価償却費	37百万円	22百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成29年2月1日至平成29年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,805	665	3,471	-	3,471
セグメント間の内部売上高又は 振替高	54	0	54	54	-
計	2,860	665	3,525	54	3,471
セグメント利益	124	50	175	1	173

(注)1.調整額はセグメント間の取引消去であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年2月1日至平成30年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,984	575	3,560	-	3,560
セグメント間の内部売上高又は 振替高	49	0	49	49	-
計	3,033	576	3,610	49	3,560
セグメント利益	139	31	170	0	169

(注)1.調整額はセグメント間の取引消去であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年4月30日)
1株当たり四半期純利益金額	19円76銭	18円56銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	162	152
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(百万円)	162	152
普通株式の期中平均株式数(株)	8,212,519	8,211,246

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 平成29年8月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年6月12日

株式会社ナイガイ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 由水 雅人 印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 古賀 祐一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナイガイの平成30年2月1日から平成31年1月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成30年2月1日から平成30年4月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年2月1日から平成30年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ナイガイ及び連結子会社の平成30年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。